

# 学校だより



平成26年6月3日  
No.5 尼崎市立尼崎養護学校

## 児童・生徒のファイトに拍手!

### 尼養体育祭 終わる



5月24日(土)尼崎養護学校の一大行事である尼養体育祭が予定通り実施されました。スクールバスが到着する頃からご家族の方も自家用車で応援に駆けつけて下さいました。ビデオカメラやデジタルカメラを片手に、我が子の頑張る姿を記録に残そうと、気合いの入ったお父さんやお母さんの姿もあり、児童・生徒だけではなく先生たちも気持ちの引き締まる時が迫ってきました。

今回の体育祭のテーマ(スローガン)は

### ぜんりよく ファイト!

ひとりひとりが競技や演技を自らの力で、やり方で、最後まで全力で取り組むこと。そして、初めてこの競技を見に来て下さった方々に、頑張りながら楽しむ姿を見ていただくことが大切だと考えていました。

各競技に取り組む児童生徒たち。その姿を見ながら、思わず拍手をしたり、歓声が上がったり……。時には、課題にチャレンジする生徒の様子を息を止めて、じっと見ている緊張感。課題を達成した時にはホッとする息づかいと共に大きな拍手が体育館内に響く……。



予行の時には競技に戸惑いながら参加していた人もいましたが、本番では大勢

の観客の中でも堂々とした姿を見せてくれました。さすが尼養の児童・生徒たちです。

さて、演技が全て終了し、今日一日を振り返ると、「心地よい疲れ」を感じました。それはそれぞれの競技の中で見せてくれた児童・生徒の「ぜんりよく ファイト」の姿から元気をもらったからです。

「皆さんが一生懸命に競技に参加したり演技する姿を見て、周りの人たちは元気をもらいました。素晴らしい力を持っていることを知って下さい。

明日からも全カファイトの気持ちを忘れずに学校で、家庭で取り組んで下さい。」

体育祭の終わりの挨拶でそんな話しをさせてもらいました。

1学期がスタートして早2ヶ月が経ちました。この6月には中学部の修学旅行や小学部高学年の自然体験学習、そしてプールの授業も始まります。季節はどんどん夏に向かっていきます。気温や湿度の変化に身体がついていかず、食欲不振となるのもこの時期です。身体がしんどくて、やる気もなくしてしまわぬように、お互い体調管理に努めたいですね。



## 体育祭を振り返り

体育大会終了後、PTA役員さんより各家庭へアンケート調査をさせていただきました。その一部を紹介させていただきます。

◎今年度は競技内容が一変し、内容的にもすごく楽しくて良かったです。各学部毎の競技も工夫されており、子どもたちの頑張る姿や反応がおもしろく、楽しめました。全校競技もエントリー制になり、今までの団子状態が無くなり、一人一人の頑張りを見ることが出来た。ありがとうございました。

高等部保護者

◎遠慮のないボールの取り合いなど、尼養の子どもたちにとっては新鮮な刺激になったように思いました。

工夫された新競技に親も子も、とても楽しめました。

中学部保護者

◎全学部同じ競技、小・中・高の学部競技と分けてやることで、小学部のかわいらしさ、中学部の成長、高等部の迫力、それぞれを見ることが出来て感動しました。

小学部保護者

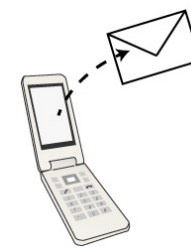
◎一人一人の動きを大事にして時間をとって、待ってくれたことが嬉しかったです。ありがとうございました。

中学部保護者

### 携帯メール配信登録にご協力下さい

先日、各家庭にお知らせしました尼養のメール配信システムですが、現在27名の登録状況です。

6月に火災避難訓練を予定していますが、非常災害時の緊急連絡等にも使用しますので、できるだけご協力をお願いします。登録方法が分からない時は、本校ホームページに登録方法を掲載しますので、ご確認ください。今週実施される、中学部修学旅行でもメール配信を予定しています。



## 元気と勇氣



「小さな手」 さだまさし

生まれた時に僕には  
その小さな小さな掌に  
大切そうに握りしめてきたものがある  
生まれた時に僕は  
この小さな小さな体よりも  
ずっと大きな宝物を抱きしめて来た  
右手には永遠の未来  
左手には無限の希望  
心は透き通って愛は  
果てしなく深く  
いつかしらぬ間に  
僕の掌はこんなに  
いつか大きく育ったけれど  
握りしめたものは何故か小さくしぼんでしまった

生まれた時に誰もが  
抱きしめてきた宝物がある  
使えば使うほどに増えてゆく不思議で大切なもの  
右手には溢れる元気  
左手には強い勇氣  
たった一度の人生  
たった一度だけの  
いつかしらぬ間に  
僕の掌は既に  
とても汚れてしまったけれど  
あと少しだけほんの一寸だけ頑張ってみようかな

この「小さな手」という歌は歌手のさだまさしさんが作詞・作曲しました。さだまさしさんは命・愛・人生といった数や形では表すことの出来ない大切なものをテーマにして、数多くの歌をつくっています。

歌の解説で、人は右手に「勇氣」、左手に「元気」を持って生まれ、この二つは、使えば使うほど増えていくが、使わないとどんどん減っていく。不思議な特徴を持っていると言っています。

考えてみると今回の体育祭でも、子どもたちの元気な姿をみて、大勢の人たちが元気になりました。

また、緊張しながらも最後まで諦めずに競技したことが、その子の自信や勇氣となり、日々の生活で一つ上の課題にチャレンジしようとする気持ちにつながってくるのではないのでしょうか。

### 元気が元気を呼び、勇氣が勇氣を呼んでくる

その日、そのときを一步ずつ「元気」に、そして小さな「勇氣」を振り絞って生きていきたいものです。